



浦賀上陸地支局

(昭和三十年十一月十四日)

史実調査参考資料報告

	史実調査参考資料報告	職官 第一中隊長	[Redacted]	摘 要 終戦時ノモ ラ記入
所在地	沖繩縣宮古島	職官 第一中隊長	[Redacted]	職ノ変更及 主ナル参加 戦年名ヲ記 ス
所属部隊	野戦重砲兵第一聯隊第六隊	氏名 陸軍大尉	昭和十六年五月十日陸軍上宮参謀卒業、十月日任陸軍少尉野戦重砲兵第一聯隊 附仰付、十二月二十五日比島リ、コ、エ、シ、マ、上陸、浦賀大隊親衛隊特務トシ比島攻 果我第一中隊長ニシテ改署戦、コレドール改署戦ニ参加 昭和十九年三月二十日第一中隊長ヲ命ス、六月二十三日、浦賀島撤退、三月 七月十七日宮古島上陸、浦賀第一中隊長トシ同島、河街ニ任ス	職ノ変更及 主ナル参加 戦年名ヲ記 ス
支那事変以 降ニ於ケル自 己ノ略歴	昭和二十三年五月編成	昭和二十一年自動車運転引九六式十二格	[Redacted]	最終ノ所属 部隊ヲ記シ 尚其ノ以テ ノ所属部隊 ノ介ヲモ概 記ス
所属部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
所属部隊 戰經過ノ概 要	浦賀第一中隊長ニシテ六月十九日比島上陸、比島ニ於テ 作戰シ、第一中隊ニシテ宮古島ニ於テ、河街ニ任ス	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
終戦又ハ、主力 ノ戦ヲ終了シテ ノ狀況	専ラ自活ニ処ス、榮養ニ確信、自ラノ、榮養ニ概ナシ 君ノ、確信ニシテ、帰還、歌送ニ、参加シ、任ス	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
歸郷又ハ、連 絡先	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
其ノ他ノ参 考事項	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

W

及本島に飛上る取組に西島に  
 二着加ふ如く計画をアタリ  
 二舟艇より秘密壕完成に余力を留めずとも資材不足のため完成に到らな  
 設定せる基地へ作戦に際し使用し得べし

三不明  
 四不明

糧食の概三月分を積上げてあり  
 五 团长以下陣地構築及訓練に努力を著し其の成果が著しきアリ

五、沖繩の戦中一を終結す

六不明

三 距二〇、三〇三日以降終戦に到る迄連日猛烈な極大益向壕外に於ける如何に  
 行動する困難をシメタリ

四 部隊に損害が与へらるるナレ

五 ナレ

六 ナレ

六 給養衛生

終戦直前迄概々良好な状態を保持してあり  
 七 沖縄本島を収容所としてあり

戦史資料科

野戦重砲兵第一聯隊第百六隊(沖縄戦終結古島)

大隊長 陸軍少佐 高矢三郎

一 編成裝備關係

1. 自己部隊編成人員

兵

器

將校以下 六〇六名

九六式十五糎榴弾砲 十二門

九〇輕(重)機測車 三(三)

九八式六七糎列車(増設) 六(六)

九四式自動貨車 七

彈

藥

九二式榴弾 一三〇〇發

二 職台員表

区分	職	官	氏名	出身	区分	職	官	氏名	出身
大隊長	少佐	高矢三郎	士46	第一	中隊長	中尉	杉江朝次郎	ア口	
副官	少尉	片岡明	召	中隊長	少尉	中村千足	召		

9

本指揮班長	中尉	姬野寬一	召	隊	小隊長	見習曹	宮本德太郎	召
視測掛	少尉	西川繁一	召	第	中隊長	大尉	川产廉介	士54
部通信掛	少尉	尾世川正男	召	中	小隊長	少尉	藤井健三	召
軍醫	中尉	堀込仁	召	隊	小隊長	少尉	豊田隆二	召
一第	中尉	三上鎮男	召	增	小隊長	少尉	竹内秋男	士57
中隊長	少尉	原公明	召	負	小隊長	見習曹	中山賢貞	召

3. 人員兵器等、増減関係

昭和十九年 人員 將校 = 増 將校 一 減 (死亡)

兵数 異動ナシ

昭和二十年 人員 兵 九八式方車牽引車 六増

4. 現地人使役関係

陣地構築、為延約四八〇〇名使用

二部隊履歴、概要

明治三十三年 創立

大正五年 青島作戦(増加)

昭和十四年 一ノニハニ事件参加

昭和十六年 大東亞戦争 比島攻取戦参加

昭和十九年 七月 宮古島上陸

昭和二十年 三月 天号作戦参加

三指揮隷属関係

第三十二軍 第二十八師團 配属

四作戦準備関係

1. 作战計画、概要 (戦斗計画)

(イ) 防衛方針 水陸両面

(ロ) 防衛配備

南地区正面 八門

北地区正面 八門

東地区正面	四門(六内)
中地区正面	四門
伊良部島	二門
砲台	二門

2. 陣地ノ状況

1) 陣地種類數 洞窟陣地 四五 野戰陣地 二〇 砲台 三  
 起工。昭和十九年八月上旬。所要全負延 三五〇〇〇名  
 所要資材 丸太 二〇〇〇〇本 セメン 八〇〇〇袋 其他  
 (2) 完成時期 昭和二十年八月上旬 概成  
 (3) 敵攻害ニ依ル破壊ナシ

4. 軍需品ノ集積状況

彈藥 糧料 總ノ洞窟内ニ收容ス  
 集積輸送ニ 自動貨車 トロツコ 地方馬車 臂力  
 大部ノ臂力ニ依テ實施ス  
 5. 作戰準備ノ寸暇ヲ利用シ 主トシテ 對戰車射撃  
 (陣地構築) 集中射撃 注ニ 對戰車 迫攻毒 及 挺身奇襲ノ  
 訓練ヲ實施ス

五. 戰鬥狀況

1. 天号作戰參加  
 2. 昭和二十年五月 敵艦隊(約十數隻) 主トシテ 飛行場ニ  
 對シテ 艦砲射撃ヲ實施セルニ 部隊ニ 被害ナシ  
 3. 敵機集積狀況  
 昭和十九年十月十日 約三機  
 昭和二十年四月以來 七月二五、連日數十機集積  
 部隊ニ 大ニ 損害ナシ 戦死 五名ヲ出セリ

六、給養衛生

昭和十年四月迄の二千カロリヲ確保セルモノ六、七八月迄の  
千五百カロリ前後ノ給養ヲ實施セリ。

衛生關係ニ於テハ、マラリヤ患者相繼々出テ死没者ノ大部  
ヲ占メタル。亦栄養不良ニ基ク死没者ニ数名出ル。

七、終戦ヲ帰還途ノ概要

終戦後ハ自任地ニ体力ヲ回復ニ専念スト共ニ本土帰還途  
ニ対シテ諸種ノ教育ヲ実施

昭和二十年十一月十三日、宮古島出発

昭和二十一年十二月二十日、浦賀港上陸

昭和十六年五月

戦史資料報告ノ件

昭和二十年十一月三十日

持統天皇御祭奉り元中歳第一小队

支向収容課庶務係御中

首題ノ件別紙ノ通リニ付テ報告ス